

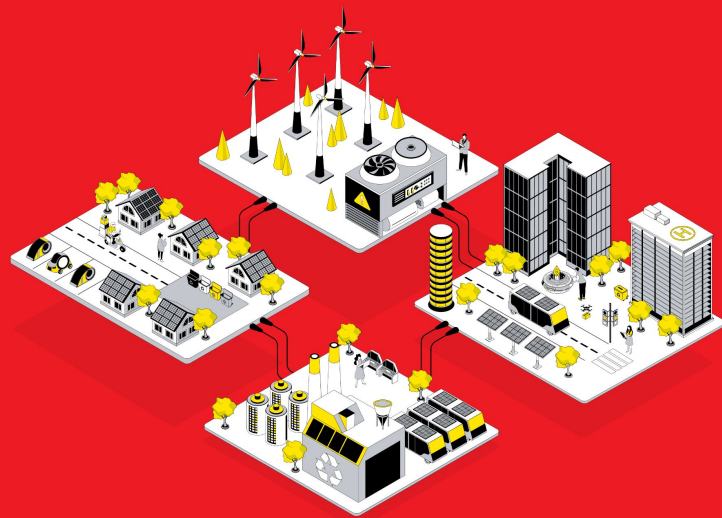
■ 現場×AIで、インフラ点検を高度化する

「AIで 明日を変える ENECHANGE」

第二弾として株式会社Flight PILOTへ出資を決定

～ 2026年7月24日公表の株式会社ダーウィンの株式取得（子会社化）に続く取り組み

2026年7月31日



■ エグゼクティブサマリー

まとめ — 2件のM&A・提携の全体像（一体で捉える意義）

成長戦略「AIで 明日を変える」を、2件のM&A・提携で“一体実装”

- 需要家インフラ（ダーウィン＝人手×AI・DX）と発電インフラ（Flight PILOT＝インフラ施設点検×AI画像解析ソフト）を得たことにより分散型インフラ点検を“面”でカバーが可能に
- 法定点検の安定リカーリング収益（ダーウィン）と、AI画像解析・破損検知のソフトウェア技術基盤（Flight PILOT）を一体で確保し、当社のソフトウェア領域を強化
- 電力切替の顧客基盤（約1.5万軒）× AI/DX・ソフトウェアの“掛け算”で、相互送客・クロスセルによる価値創出
- 規律あるプログラマティックなM&A・提携として実行。海外で実証された「保安・点検ロールアップ」を起点に、将来はSaaS外販・プラットフォーム化へ

■ 案件サマリー | 株式会社Flight PILOT への出資（資本業務提携）

発電インフラ点検の技術を取得し、当社のソフトウェア領域を強化するものです。

資本業務提携（出資）

 19.89%

取引概要

- 株式の19.89%を取得する資本業務提携（一般投資）。あわせて同社のAI画像認識・破損検知点検ソフトウェアを取得
- 取得実行（クロージング）：2026年7月31日。取締役会決議・契約締結は2026年7月31日
- 対象会社株式 金 20百万円

目的

- 成長戦略「AIで、明日を変えるENECHANGE（現場領域のAI活用）」の一環として、発電インフラ等の点検をAIとDXで高度化・省人化する技術基盤を獲得
- 自社開発を進めるAI画像解析点検ソフトウェアを強化し、当社のソフトウェア領域を拡充。将来的には点検事業者へのSaaS外販モデルも視野

位置づけ

- ダーウィン（需要家インフラ＝人手×AI・DX）に続く、発電インフラ点検を担う技術ピース
- 小規模案件を積み上げる、プログラマティックなM&A・提携の一環

■ 対象会社の概要 | 株式会社Flight PILOT

AI画像認識・破損検知の点検用ソフトウェアを開発し、点検事業者へ外販するモデルを有しています。

資本業務提携（出資）

 19.89%

名称	株式会社Flight PILOT
所在地	長崎県佐世保市江迎町長坂179-8
代表者	代表取締役 川上 貴之
事業内容	インフラ施設点検サービス及びAI画像認識・破損検知システムの開発・外販 等
設立	2018年9月
資本金	101,265,000円
従業員	約15名

事業・技術の特長

- AI画像認識で設備の破損・劣化を自動検知する点検用ソフトウェア。コア技術は「インフラ施設点検×AI×IEC国際規格」
- 撮影データをAIが解析し、異常検知・劣化診断から報告書生成まで自動化（国土交通省 点検要領準拠フォーマットに対応）
- 関連ハードウェアを製造・保有しない、アセットライトなソフトウェア外販モデル

実証実績（3分野）

太陽光発電所

赤外線×RGB診断
IEC 62446-3準拠

暗渠・水路・橋梁

国交省点検要領準拠

建物・外壁

0.2mm級の
微細ひび割れ検出

※ 取得金額は当社の連結総資産・純資産に照らして軽微なため、適時開示に準拠し非開示。

③ 本件M&Aの目的 | 成長戦略上の位置づけ

：「現場領域のAI活用（電力隣接領域）」を加速する案件

	FY25	～FY27	FY28以降
海外で、未来を学ぶ ENECHANGE 海外の先進知見の獲得	海外投資マネジメント 海外の先進知見蓄積	海外投資マネジメント ビジネスの顧客拡大	投資マネジメントビジネスの深耕 （小口資金活用、タイムマシン型 ・先進的ビジネスへの投資等）
AIで、明日を変える ENECHANGE 現場領域のAI活用（電力隣接領域）	種まき （対象企業・業種の選定、実証）	AI点検 + クロスセル立ち上げ	スケール・周辺領域の統合運営
切替で、今日を支える ENECHANGE 電力流通プラットフォームの拡大	電力切替（収益基盤） 基幹システム（CIS）基盤確立	CIS拡販・クロスセル本格化 その他ソリューション^{*1}展開	CIS拡大 総合ソリューション化
調整後EBITDA^{*2}（イメージ）	6.5億円	12.5億円	50～100億円

主力稼働
 立ち上げ・拡大
 種まき・準備

^{*1} その他ソリューションには、電源調達支援および分散型（太陽光・蓄電池）展開を含む ^{*2} 調整後EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費＋株式報酬費用＋M&A関連費用

■ 高付加価値事業への集中とアセット・ライト戦略、そして次なる挑戦へ

発電・電源調達

小売・営業

電力消費・管理

Flight PILOT社

電力・ガス事業者

需要家・消費者



インフラAI
点検



電源仲介



電源設備
運用支援



再エネ
投資



家庭
電力切替



法人
電力切替



支援
ツール



基幹
システム



エネルギー
マネジメント



分散型リソース
提供・制御



電力関連機器
のAI点検



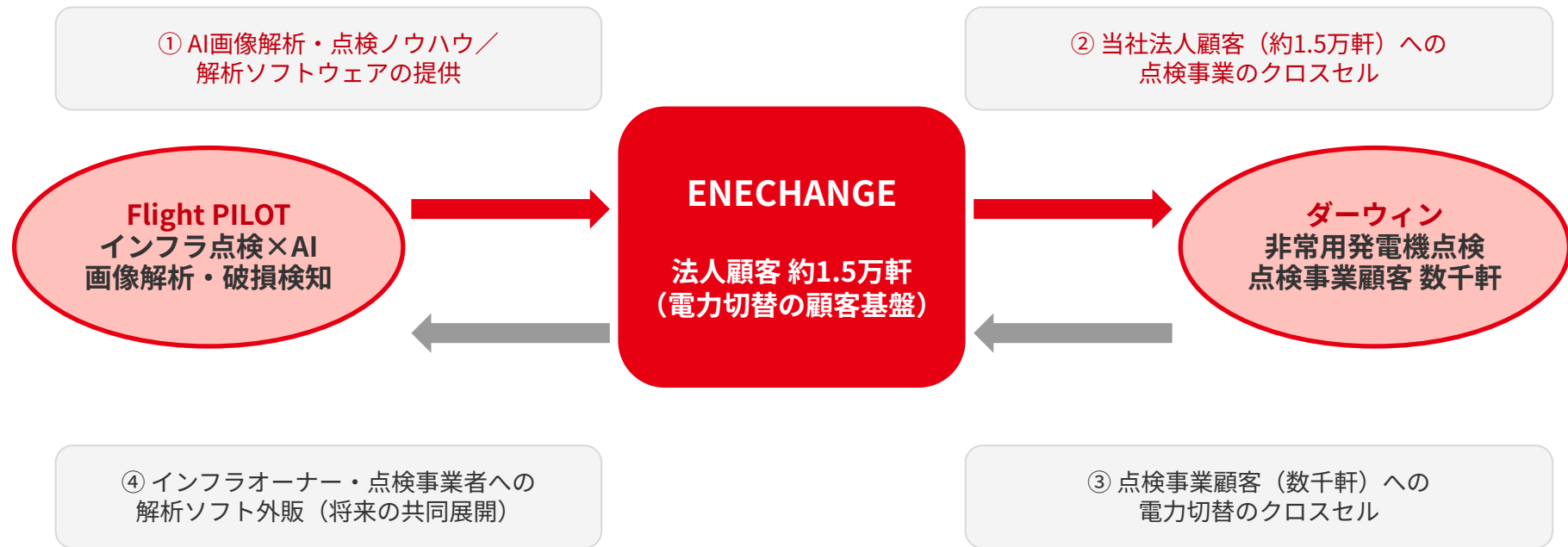
脱炭素支援

7月24日発表 ダーウィン社

ENECHANGE

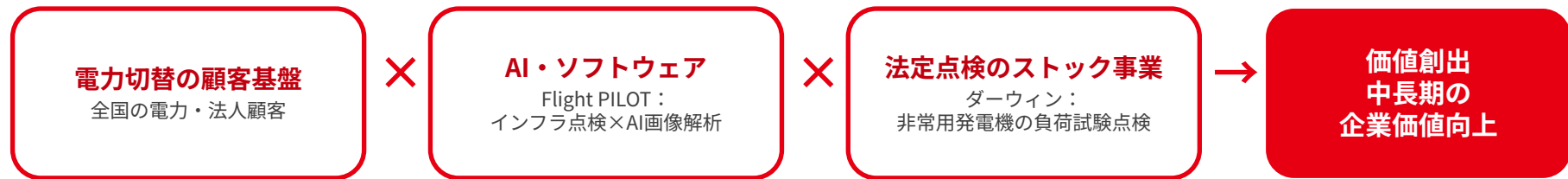
祖業である電力切替をハブに、事業者及び需要家向けにソリューションを提供
日本のエネルギー流通における最適化・効率化に貢献

■ 本件による事業シナジー | ENECHANGEを起点とした技術活用と相互送客



※ 顧客件数は当社把握に基づく概数。将来の共同展開・外販は現時点の構想であり、実現・時期を確約するものではありません。

■ 本件M&Aの価値創出 | 現場（点検事業）× AI・ソフトウェア × 電力切替顧客基盤



※ 将来のクロスセル・SaaS外販は現時点の構想であり、実現・時期・規模を確約するものではありません。

■ ⑤ 将来の方向性～海外で実証された“**保安のロールアップ**”を日本で

法定・リカーリング型の点検・保安のロールアップは海外で兆円規模の価値を生んでおり、本件はその第一歩です。

スケールの到達点

時価総額

APi Group

約 1.7 兆円

NYSE: APG／ライフセーフティ点検・保守

- 法定・リカーリング収益を核に売上を約2倍（約\$3.6B→約\$7B超）へ拡大
- ボルトオン買収を150件超積み上げ、規律あるロールアップを実践

電気保安のピュアプレイ

Exitした取引規模

Shermco

約 2,400 億円

米国／電気試験・保安・O&M

- PE保有7年で売上を約2倍化、アドオン買収を12件超実施
- 2025年、Blackstoneへ約\$1.6B（約2,400億円）でExit

本件＝第一号案件（種まき→立ち上げ）。以降、スケール・領域拡張へと段階的に展開します（ロードマップは前頁）。

本件ダーウィンはその第一歩。今後も規律あるロールアップを継続し、電力隣接のインフラ保安・点検領域でのプラットフォーム化を目指します。

※ 海外事例は公開情報等に基づく当社の整理であり、その正確性・適切性を保証するものではありません。将来の見通しは保証されるものではありません。

エネチェンジ

エネルギーの未来をつくる

CHANGING ENERGY FOR A BETTER WORLD

ENECHANGE